

## 『第14回日中韓3か国地方政府交流会議』事業報告書

平成24年（2012年）7月30日（月）から8月2日（木）の4日間、中国雲南省昆明市で『第14回日中韓3か国地方政府交流会議』が開催された。

この会議は、歴史的にも、地理的にも極めて密接な関係にある、日本、中国、韓国の自治体相互の交流及び協力関係をより一層推進することを目的に、3か国の国際交流機関（日本・(財)自治体国際化協会（CLAIR）、中国・中国人民対外友好協会、韓国・全国市道知事協議会（GAOK））が輪番制により開催している。

首長レベルが出席する会議として平成11年（1999年）より毎年開催しているもので、今年は第14回の開催であった。

当会議は、①首長レベルの参加者が多く、トップレベルの意見交換・交流が可能、②日本、中国、韓国の多数の団体が参加するため幅広い意見交換・交流が可能、③観光客誘致といった自治体PRの場としても有効なことなどから、毎回各国から多くの自治体関係者が参加している。本年の会議は、中国内陸部にある雲南省昆明市での開催であり、234名の自治体関係者が一堂に会して交流することができた。

### 1. 会議概要

- (1) 期 日： 平成24年（2012年）7月30日（月）～8月2日（木）
- (2) 開催地： 中国雲南省昆明市 佳華広場ホテル
- (3) 主催： 中国人民対外友好協会、雲南省人民政府
- (4) 後援： 雲南省人民政府外事弁公室、雲南省人民対外友好協会、  
昆明市人民政府

### 2. 参加者

H24年度	日本		中国		韓国		計	
	参加者数	参加団体数	参加者数	参加団体数	参加者数	参加団体数	参加者数	参加団体数
自治体等	34名	19団体	122名	28団体	56名	23団体	212名	70団体
主催者側	9名	—	7名	—	6名	—	22名	—
計	43名	—	129名	—	62名	—	234名	—

(参加者詳細については、別添名簿のとおり)

- (参考) 第11回（中国 長春市）260名
- 第12回（日本 長崎県）350名

第13回（韓国 全羅北道）532名

3. テーマ

(1) 主 題： 『交流協力を深め、地方政府の共同发展を促進する』

- (2) サブテーマ： ① 『伝統文化の保護と観光産業の発展』  
② 『環境配慮型の都市計画と持続可能な発展』  
③ 『地方政府の交流を通じた地域経済の発展』

#### 4. 全体日程

時間	内容
<b>7月30日(月)</b>	
終日	受付
18:00-21:00	夕食:バイキング(事前申込者のみ)
<b>7月31日(火)</b>	
06:30-07:30	朝食:バイキング
08:30-08:50	雲南省政府首長のVIP会見
08:20	昆明錦江ホテルに宿泊している参加者は集合し会場へ移動
08:30	一般参加者入場
09:00	雲南省政府首長・発表者等VIP入場
09:00-10:05	開会式 司会者:中国人民対外友好協会 アジア・アフリカ部 副主任 陸学志 ①開会宣言 ②雲南省政府首長 挨拶 ③中国人民対外友好協会 副会長 馮佐庫 挨拶 ④日本 自治体国際化協会 理事長 木村陽子 挨拶 ⑤韓国 全国市道知事協議会 地方国際化支援室長 韓達傳 挨拶 ⑥韓国 駐中国大使館 公使 趙鏞天 挨拶
10:05-10:20	休憩
10:20-10:45	主題発表(中国)昆明市 市長 張祖林
10:45-11:10	主題発表(日本)藤沢市 市長 鈴木恒夫
11:10-11:35	主題発表(韓国)忠清南道 副知事 具本忠
12:00-13:00	【発表者等VIP】 中国人民対外友好協会・雲南省人民政府 共同主催の昼食会 【一般参加者】 バイキング
13:30-14:15	事例発表 テーマ1『伝統文化の保護と観光産業の発展』 司会者:雲南省社会科学院副院長、研究員 ①(日本)高山市 副市長 西倉良介 ②(韓国)慶尚南道咸陽郡 代郡守 千聖奉 ③(中国)浙江省人民政府外事弁公室 副主任 陸国灝
14:15-15:00	事例発表

	<p>テーマ2 『環境配慮型の都市計画と持続可能な発展』</p> <p>司会者：雲南省社会科学院院長、研究員</p> <p>①(韓国)ソウル市江東区 副区長 金榮翰</p> <p>②(韓国)全羅南道順天市 副市長 徐福男</p> <p>③(中国)無錫市人民政府外事弁公室 副主任 許睿煜</p> <p>④(日本)仙台市 副市長 稲葉信義</p>
15:00-15:45	<p>事例発表</p> <p>テーマ3 『地方政府の交流を通じた地域経済の発展』</p> <p>司会者：雲南省人民政府外事弁公室主任</p> <p>雲南省人民対外友好協会 会長 周紅</p> <p>①(中国)四川省人民政府外事弁公室 副主任 羅雷</p> <p>②(日本)長崎県国際課 課長 天野俊男</p> <p>③(韓国)慶尚北道亀尾市 経済通商局長 李弘熹</p>
15:45-16:00	討論
16:15-17:40	都市交流サロン
17:40	参加者は入場
17:50	雲南省政府首長・発表者等VIP入場
18:00-18:30	<p>閉会式</p> <p>司会者：雲南省人民政府外事弁公室主任</p> <p>雲南省人民対外友好協会 会長 周紅</p> <p>①司会者による閉会宣言</p> <p>②中国人民対外友好協会 副会長 馮佐庫 挨拶</p> <p>③韓国 全国市道知事協議会 地方国際化支援室長 韓達傳 挨拶</p> <p>④日本 自治体国際化協会 理事長 木村陽子 挨拶</p> <p>⑤次期開催地 発表及びPR 富山県 副知事 植出耕一</p>
18:30~20:00	<p>雲南省人民政府主催 歓迎交流会</p> <p>司会者：雲南省人民政府外事弁公室主任</p> <p>雲南省人民対外友好協会 会長 周紅</p> <p>①司会者による開会宣言</p> <p>②雲南省政府首長 挨拶</p> <p>③司会者による閉会宣言</p>

現地視察

一日視察コース	
<b>8月1日(水)</b>	
07:00-08:00	朝食：バイキング
08:30-09:30	バス移動
09:30-11:00	石林景勝地 視察
11:00-11:30	バス移動
11:30-13:00	昼食
13:00-14:30	バス移動
14:30-16:00	雲南民族村 視察
16:00-16:30	バス移動
18:00-20:00	昆明市人民政府主催「雲南グルメの夕べ」
<b>8月2日(木)</b>	
終日	帰国等

二日視察コース	
<b>8月1日(水)</b>	
07:00-08:00	朝食：バイキング
08:30-09:30	バス移動
09:30-11:00	石林景勝地 視察
11:00-11:30	バス移動
11:30-13:00	昼食
13:00-14:30	バス移動
14:30-16:00	雲南民族村 視察
16:00-16:30	バス移動
18:00-20:00	昆明市人民政府主催の「雲南グルメの夕べ」
<b>8月2日(木)</b>	
07:00-08:00	朝食：バイキング
08:30-09:00	バス移動
09:00-10:00	昆明滇池パンアジア国際都市湿地 視察
10:00-10:30	バス移動
10:30-11:00	呈貢大学城 視察
11:00-11:30	昆明市行政センター 視察
11:30-12:00	バス移動

12:00-13:30	昼食
13:30-14:30	バス移動
14:30-15:30	昆明博覧会エコシティ 視察
15:30-16:00	バス移動
16:00-17:30	金馬碧鶏鳥居のご見学
17:30-18:00	バス移動
18:30	夕食：バイキング
<b>8月3日（金）</b>	
終日	帰国等

## 5. 詳細報告

### (1) 開会式

7月31日に行われた開会式では、司会者による開会宣言の後、雲南省人民政府副省長、中国人民対外友好協会副会長、自治体国際化協会(CLAIR)理事長、韓国全国市道知事協議会(GAOK)副秘書長（地方国際化支援室長）及び韓国駐中国大使館公使による挨拶が行われた。



開会式壇上



中国人民対外友好協会  
馮佐庫副会長 挨拶

雲南省副省長からは、昆明市、麗江市及び、大理市は、それぞれ日本の藤沢市、高山市及び、美馬市と友好提携し、経済、科学技術、文化、教育、環境など、様々な分野において、友好交流と協力を行っているという説明があった。また、雲南省は、2009年に韓国の全羅北道と正式に友好提携をし、昆明市には現在3,000名ほどの韓国人が長期的に住んでおり、韓国企業も30数社進出している。今年の第14回日中韓3か国交流会議が開催されることへの感謝の意が表され、日中韓の人民の更なる相理解を推進されることを願っているという挨拶がされた。

当協会の木村理事長からは、まず東日本大震災に関する支援への感謝や「心の絆」を与えられたという国際交流の原点についての話がなされた。また、日中韓3か国の相互理解を深めることができれば、それは北東アジア地域全体の共同発展につながっていくことから、それぞれの協力関係がさらに進むことへの期待が述べられた。



クレア 木村理事長 挨拶

GAOK 副秘書長からは、日中韓 3 か国地方政府交流会議の重要性と、これを基礎にして三者が協力して相互発展を促進することへの期待が発表された。

韓国駐中国大使館公使からは、日中韓 3 か国地方政府交流会議で話されたことが、具体的な施策につながることや、中央政府への働きかけに繋がっていくことへの期待が話された。



## (2) 本会議

### 【主題発表】

開会式につづく本会議では、3か国の代表者による主題発表が行われた。

発表者	主な内容
(中国) 昆明市 市長 張祖林	主に昆明市の友好交流について発表された。昆明市は、1981年に藤沢市と友好都市提携し、現在は約30都市と国際交流しているが、うちアジアの都市が半数を占めていることから、昆明市はアジアとの交流を重視しているという発言があった。また昆明市は人と人の繋がりを大切にしており、元藤沢市長の葉山峻氏を昆明市名誉市民としており、藤沢市からの寄付により建てられた日中の友情を象徴する藤沢友情館についても言及があった。昆明市の滇（てん）池の水環境総合対策に、藤沢市の協力があることも発表された。
(日本) 藤沢市 市長 鈴木恒夫	昆明市と藤沢市の友好都市提携30周年事業が昨年行われたことや、両市が長年交流するきっかけとなった歴史について述べられた。昆明市出身の中国国歌「義勇軍進行曲」の作曲者・聶耳氏が藤沢市で生涯を終え、その死を悼んだ藤沢市民が記念碑を建立したことが交流の始まりであった。日中国交正常化より遙か以前に、民衆の力でつながった交流が、現在まで脈々と受け継がれているとのことであった。 韓国保寧市との交流についても触れ、市民交流の重要性、地方政府の発展には市民・民間との協力が不可欠であると述べられた。 環境問題、教育関係での交流についても述べられ、未来を担う若い世代が世界に目を向ける機会を与えたいと発表された。
(韓国) 忠清南道 副知事 具本忠	地方政府の交流が国家外交を支援・補充する役割を担っていることなど、地方自治体間の国際協力の必要性を述べ、世界の発展を地方が主導するということが強調された。 また藤沢市長の発表と同様、民間団体の国際協力についても触れられた。



藤沢市 鈴木恒夫市長



熱心に聴き入る会場の聴衆

【サブテーマ発表】

午後からの事例発表では、今年の会議の主題である「交流協力を深め、地方政府の共同発展を促進する」をより具体的に理解するため、日中韓3か国の共通課題である「文化」「環境」「地域経済」のサブテーマについて、各国の代表者による発表が行われた。

- サブテーマ①「伝統文化の保護と観光産業の発展」
  - ②「環境配慮型の都市計画と持続可能な発展」
  - ③「地方政府の交流を通じた地域経済の発展」

サブテーマ①「伝統文化の保護と観光産業の発展」

発表者	主な内容
(日本) 高山市 副市長 西倉良介	<p>高山市の概要、海外戦略ビジョン説明の後、歴史的町並みと祭り屋台、伝統工芸の保護についての発表があった。</p> <p>伝統文化の保護には、住民の伝統を守る熱い思いと同時に、費用面での補助を含めた行政の取り組みを両輪として進めていく必要があることを説明された。</p> <p>また、高山市は国際観光に力を入れている日本有数の都市である。国際観光の振興のために、多言語併記の誘導案内を整備したり、外国語パンフレット等の提供、ホームページの多言語化、Facebook による情報発信、海外で開催さ</p>

	<p>れる旅行博覧会への出展、中部・北陸9県での広域連携による観光PR「昇龍道プロジェクト」等、様々な仕掛けをしているという説明があった。また最後には、伝統文化の保護にあわせて、あらたな芸術文化の創造にも取り組んでいくことを発表された。</p>
<p>(韓国)慶尚南道咸陽郡 代郡守 千聖奉</p>	<p>慶尚南道咸陽郡では、韓国の伝統文化ともいべき朝鮮人参の栽培が盛んであり、代表的な産業となっている。朝鮮人参フェスタは国が指定したフェスティバルにも選定され、これまで254万人の人出があった。また観光振興にも力を入れ、有数の修学旅行地となっている。</p> <p>また儒学について再考している。儒教文化を受けた文化財も多いことから、これらを観光資源として世界遺産登録にむけて動いているという発表があった。</p>
<p>(中国)浙江省人民政府 外事弁公室 副主任 陸国灝</p>	<p>浙江省と静岡県友好都市交流についての説明があった。浙江省は1982年に静岡県と友好都市を提携し、それから相互訪問しており、一昨年には、静岡県が「中国に対する友好都市交流協力賞」を受賞された。30年にわたる交流において周年事業をつづけており、11月には富士山にちなんで3,776名の訪問団が杭州を訪問予定である。両者はお茶の栽培が盛んであることから、茶分野での交流もしている。また企業間交流、スポーツ交流も行っている。</p> <p>友好都市は互いが交流、発展するための重要なルートである。地域間交流を重視して、WINWINの関係を築いていきたいという発表があった。</p>



高山市 西倉良介副市長



通訳ブース

サブテーマ②「環境配慮型の都市計画と持続可能な発展」

発表者	主な内容
<p>(韓国)ソウル市江東区 副区長 金栄翰</p>	<p>持続可能な手段として、都市農業の取り組みについて説明がなされた。公共菜園を造成して、エコ農業、環境配慮型農業を進めている。これが教育プログラムや雇用の創出にも繋がっているとのことであった。</p>
<p>(韓国)全羅南道順天市 副市長 徐福男</p>	<p>順天市の湿地保護についての説明があった。渡り鳥の飛来地である順天湾を復元することで、野生動物の生息地の確保をする。ラムサール条約調印や湿地保護センターの開設をし、稲田による生物多様性の保護をしている。2013年4月には世界園芸博覧会を6か月間にわたって開催する。</p>
<p>(中国)無錫市人民政府 外事弁公室 副主任 許睿煜</p>	<p>第5回大会の開催地である無錫市は、1981年に日本の明石市と友好都市関係を結んで以来、22か国の40都市と友好都市関係を始めた。日本の大企業が進出している地でもある。また、日本や韓国との友好都市との相互訪問人数は、約8,800人に及ぶ。無錫市からは、日本の明石市等に職員を研修として派遣しており、明石市に学んでいる。長江デルタ地区の開発においては、日韓の先進事例に学びたいという発表があった。</p>
<p>(日本)仙台市 副市長 稲葉信義</p>	<p>「東日本大震災からの復興と新次元の防災・環境都市を目指して」をタイトルとした発表が行われた。</p> <p>仙台市が東日本大震災により受けた被害及び復興計画について説明があった。その一つの「省エネ・新エネプロジェクト」は、賢く使う・生み出す・開発することによって、「持続的なエネルギー供給を可能にする」というプロジェクトである。</p> <p>最後には、再生可能エネルギーを活用した「新次元の環境・防災都市」を実現し、東北の復興と持続可能な社会の構築に取り組むという宣言がされた。</p>



仙台市 稲葉信義副市長



事例発表時の壇上

サブテーマ③「地方政府の交流を通じた地域経済の発展」

発表者	主な内容
(中国)四川省人民政府 外事弁公室 副主任 羅雷	<p>四川省は1984年に広島県と友好関係を展開し、経済、環境保護など多分野での交流をしている。2009年が25周年。翌年の2010年7月には、経済と貿易の分野の交流協力を拡大。「経済貿易交流協力プロジェクト」を発足し、「経済などの分野の友好交流強化に関する協定」を締結した。また、四川省環境保護庁と、広島県環境県民局は、「環境保護協力事業に関する3年間計画」を同意し、さらに、農業においては、今年に四川省農業庁と、広島県の農林水産局と「農業協力に関する協定」を締結した。経済においては、今年5月に広島に四川の経済交流事務室が設立し、企業との交流により1億545百人民元の貿易契約をしている。信用金庫との関係もでき、より深く、より広く交流ができているとのことであった。</p>
(日本)長崎県国際課 課長 天野俊男	<p>2010年の開催地でもある長崎県からは、「地方政府の交流を通じた地域経済の発展」と題した発表が行われた。長崎県は地理的にも中国・韓国とも非常に近く、国際観光プロモーションも精力的に行っている。</p> <p>中国との交流は、鎖国時代も出島において続いており、中国寺などの建造物や長崎ランタンフェスティバルなど文化の面でも影響は色濃い。今年度は、中国福建省と友好県</p>

	<p>省を締結して30周年であり、7月には福建省から80人ほどの訪問団が来県するなどの記念事業を行った。</p> <p>韓国とは、1500～1600年代の朝鮮通信使往来が、対馬の文化にも強く影響をもたらしている。対馬市では朝鮮通信使を再現する「対馬アリラン祭」を開催。釜山へのフェリー就航の影響もあり、人口4万人の対馬に年間10万人の韓国人観光客がある。</p> <p>上海や釜山に対しては、フェリーの定期就航便も就航し、近年観光客を増加させている。将来的にはこのルートを活用し、日本の西端である長崎県の地域活性化につなげていきたいとのことであった。</p>
<p>(韓国)慶尚北道亀尾市 経済通商局長 李弘憲</p>	<p>亀尾市はサムスンなどの企業を有する韓国最大の企業都市である。平均年齢が34歳と非常に若年層が多い市である。国家産業パークでは42km<sup>2</sup>に2,411社の企業が進出している。</p> <p>国際交流の面では、世界8つの都市との交流がある。また朴正熙元大統領の旧居があり、毎年50万人以上の観光客がある。現在は大統領記念館と記念公園を建設中である。</p> <p>最後に新村運動について説明があった。物資だけではなく精神も豊かにして調和をとるというコミュニティーを中心とした取り組みである。ベトナム、東ティモールなど共に豊かになる活動をしていきたいとの発表があった。</p>



長崎県国際課 天野俊男課長



発表時の会場の様子

### (3) 閉会式、レセプション

本会議後に行われた閉会式では、各国代表者挨拶の後、次期開催地である富山県の植出副知事がDVD（中国語版）を用いて富山県の魅力について語られ、次回の参加を促された。

続くレセプションでは、少女合唱団の歌や、笛、弦楽器の演奏で演出されていた。各参加者はテーブルで乾杯を行うなど、和やかな雰囲気ですべての参加者が歓迎されており、盛会のうちに終了した。



富山県 植出耕一副知事



レセプションの様子



#### (4) 現地視察

本会議を終えた翌日、8月1日(水)～2日(木)には、参加希望者のみ現地視察ツアーが開催された。一日目は『伝統文化の保護と観光産業の発展』、二日目は『環境配慮型の都市計画と持続可能な発展』というテーマに沿った視察コースであった。

##### 【8月1日(水)】

石林景勝地 → 雲南民族村 → 昆明市人民政府主催「雲南グルメの夕べ」

##### 【8月2日(木)】

昆明滇池パンアジア国際都市湿地 → 呈貢大学城 → 昆明市行政センター  
→ 昆明博覧会エコシティ → 金馬碧鶏鳥居



石林景勝地



雲南民族村



視察の様子



視察の様子



## 6. まとめ

本会議での発表でも多く言われていたが、日本・中国・韓国の地方政府間の積極的な国際交流は、地域の活性化だけではなく、国家の繁栄、北東アジア全体の繁栄につながる。そのためにも今後も3か国の交流を積極的に行っていくべきである。

ただ、国際交流をしていく上で、地方政府間の交流以上に、民間における交流が重要な役割を果たしており、そういった民間交流をよりよく進めるために行政は何ができるか考えていくべきである。

現在、日本の地方自治体の国際化戦略は、経済的な戦略に傾きがちであるが、今回の会議では国際交流の原点である人と人との交流、真の相互理解のための交流の重要性が訴えられており、各自治体は経済的な戦略と人間同士の交流の両輪を進めていく必要がある。



藤沢市で急逝した聶耳像



藤沢市と昆明市の交流が分かる碑  
(昆明市高台にて)